

# スケールを覚えるコツを掴み完璧にマスターする講座 スリーノート・パー・ストリング編 vol.04

前回までで、代表的なスケール練習法の分析は終わりましたね。

なぜ、この一見、3nps スケールと直接は関係なさそうなことを最初にやったかと言うと、最終的には、あれら全ての視点を統合して演奏(や普段の練習)をすることになるからです。

アドリブの実践などで、「単なるスケールの上下運動になってしまう」とか、「(ほぼ)1つのポジションでしか弾けない」と言った悩みをよく聞きます。

こうなる原因の一つには、「そもそもモノ(ポジションやアルペジオ等)を覚えている数が少ない」と言う事もありますが、今弾いている場所近辺での音の配置と、左右のポジションの関連付けや法則が見えていないからでもあります。

(※一応、覚えているポジションが少なくても、良いアドリブ(や通常のプレイ)と言うのは可能ではありますが)

このテキストでも、他の教材でも、便宜的に練習法を分けてはいますが、ある種、それぞれの練習に個別の狙いがあるだけで、全て最終的な目的は「ギターという楽器をちゃんと弾けるようになる」と言うことに繋がります。

とは言え、一度に全種類、一気にやる、と言うのは時間や労力的に難しいところがありますし、多くの場合、記憶の上でも非効率ですので、1つずつやっていこう、と言う話になるわけですね。

ここまで紹介した練習法自体は、知っているものがほとんどだったと思いますが、あれらを「これをやってね」と、ポンと投げられても、その練習の目的や意味がわかっていないと、しばらくは指の運動+α くらいの効果で終わってしまいます。

(※僕も最初はそうだったのでまったく意味がないとは言いませんが笑)

今回のこの講座で、改めて、そういった理論的に大事なところや、細かいポイントを意識しながら各項目をマスターしていきましょう。

それでは、具体的な練習に入っていきますでしょうか。

## ■まず丸暗記してほしい、アイオニアンスケール(メジャースケール)のポジション

さて、ここまで色々な面から解説してきたように、スケール練習には様々な視点がありましたね。

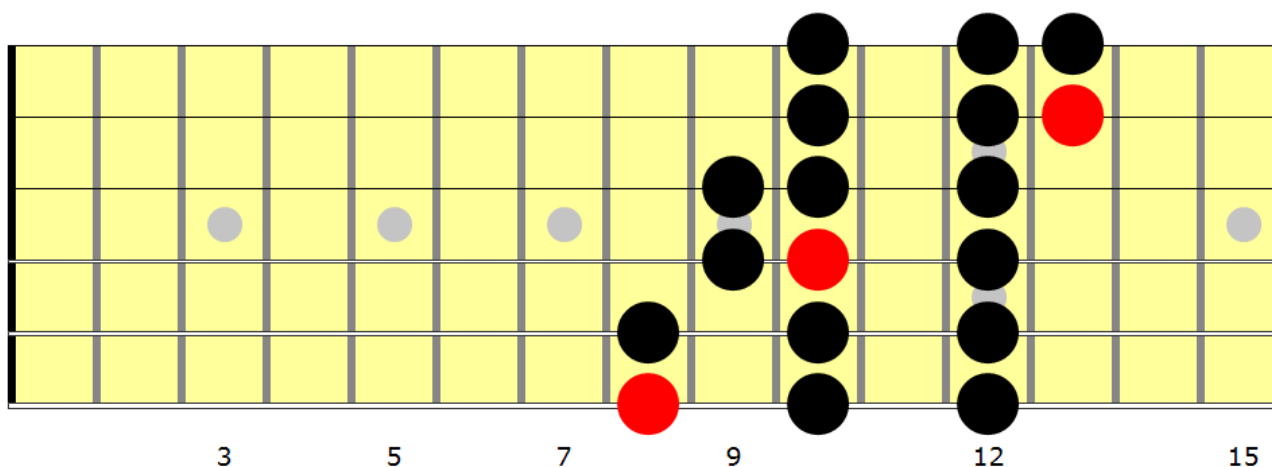
ですが、そもそもの話をしてしまうと、「基本的には暗記」の作業です。

こう言うと、「暗記」に対して苦手意識が出てくる人もいるかもしれませんが、そういった「暗記に対するマイナスイメージを」払拭する為に、この講座を作ったところもあります。

単純に、わかりやすかったり、覚えやすかったりすれば、その習得過程は面白いものになりますからね。

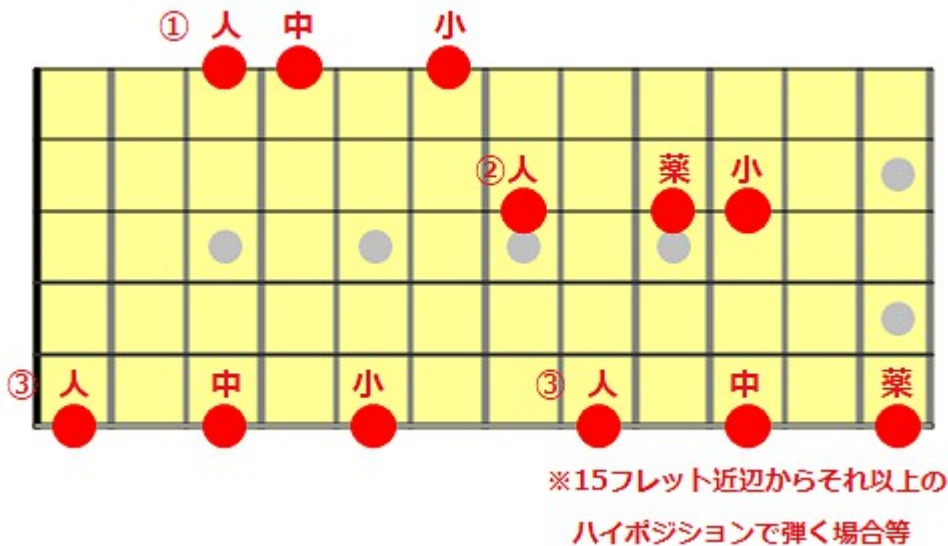
と、ということで、まず最初に覚えるポジションはこちらです。

図1、C アイオニアンスケール(Cメジャースケール)、重要ポジション



指使いは vol.02 に載せたこの図のものを 사용합니다。

図2、3nps スケールの指使い一例



トニックはC音で、スケール(音階)としてはメジャースケール(モード・スケールの的にはアイオニアン・スケール)の、6弦トニックスタートになります。

最初にこのポジションを選んだ理由は、

- ・ Cメジャースケールはスケール理解の基本
- ・ 同じ指使いが2回ずつ続いてわかりやすい(図2で言うと③⇒①⇒②の順)
- ・ ギターでCメジャースケールの構成音(ドレミファソラシ、CDEFGABの位置)を全て覚えると、ピアノで言う白鍵の音が指板上で見えていることになる

と言ったところですね。

特にこの、『ピアノで言う白鍵の音』が見えていると、Cキー以外のダイアトニックスケールで音の変化が見て撮りやすくなります。

後は、(主に初期段階での)練習時の譜割りは3 or 6連符か8 or 16分音符辺りで良いでしょう。(※目的にもよりますが、基本的にはスローテンポで行います)

※それぞれの譜割りをまとめたものなので、「譜面通りに8分音符⇒16分音符と続けて弾く指定」と言う譜例ではありません。(そういう練習をするのも可)

※※この譜例は上行のみになっていますが下降も行います。

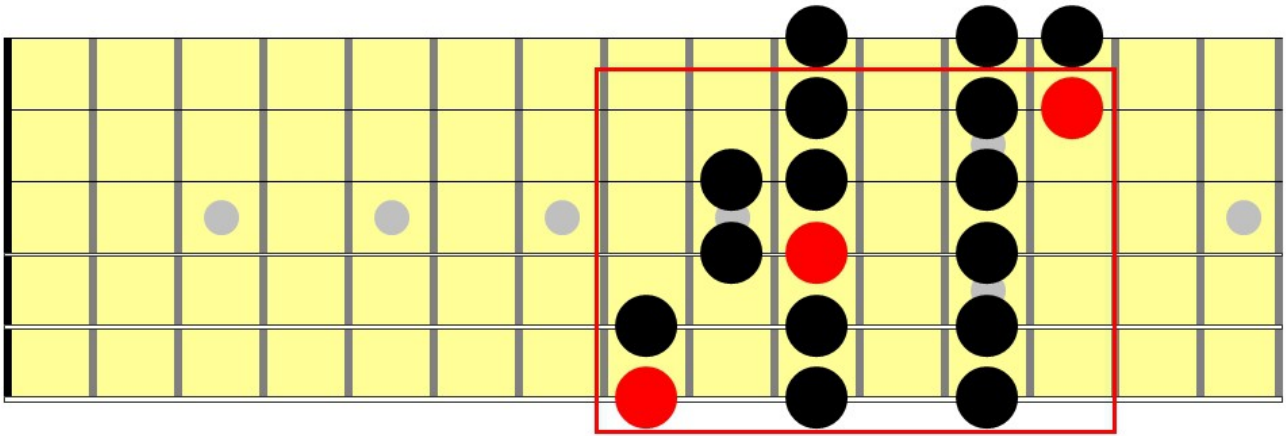
覚える段階では、「覚えること」だけに集中し、「覚えた後」は演奏スピードよりも両手のタッチやトーンの均一さや、ミュートがちゃんと出来ているか？などに注意していきましょう。

(※あくまで基礎練習としては。もし速弾きのフレーズを練習する場合は、それはそれで個別に行った方が良いでしょう)

そして、一つ重要なこととして、基本的にスケール(音階)というものは、「トニックから始まってトニックで終わる」と、そのスケールが持つ響きを一番感じられます。

このテキストの指板図では、オクターブごとのトニックを赤○にしてあるので、その位置は確実に覚えておきましょう。

後、これは3npsの練習を6弦トニックスタートでやると陥りがちなポイントなのですが、6弦からスタートした場合、1弦まで弾き切ると、最後の音が4度の音になります。



(※1弦13フレットF音は、トニックのC音に対してP4th)

なので、スケールごとの響きが身体に染みついていない段階では、こういったポジションを1弦まで弾き切ると「Cメジャースケールっぽさ(響き)」があまり感じ取れていない場合が多いです。

これを避けるためには、

**「ポジション全体を6~1弦まで全てで把握する事」**

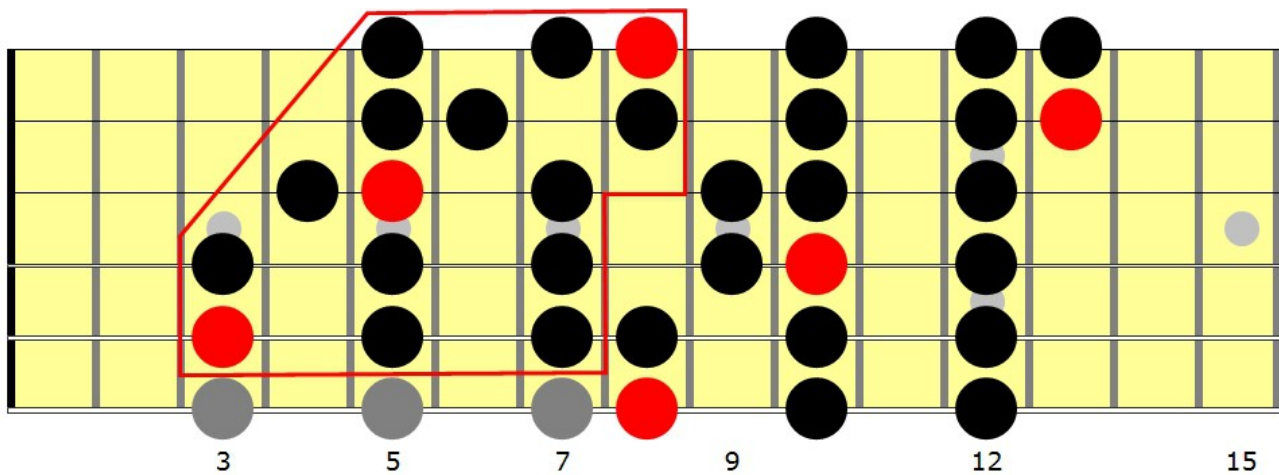
と、

**「トニックから始まってトニックで終われる範囲(上の図で言うと赤枠内6~2弦の範囲)」**

の2つの視点を持って練習すると良いでしょう。

ちなみに、同じCメジャースケールの3npsでも、5弦トニックのポジションになると、1弦の最後の音がちょうどトニックになります。

**図、Cメジャースケール、3nps、5弦トニックポジション**



こちらの、5弦トニックのポジションについても後々学びますが、余裕があれば、先に取り組んでもらっても構いません。

(※2、3弦間で1フレットずれるだけで、そもそもの音の並び方や指使いの形は同じです)

後は、5弦トニックのポジションを覚える時、

「スタートした5弦のトニックより低い、6弦上の音まで覚えるかどうか?(※上の図で言うと灰色の丸まで覚えるかどうか?)」

という疑問が出てきますが、これは後々、他の6弦トニックのポジションと重なるので、最初はどちらでも構いません。

これもやはり、余裕があればやっておくに越したことはない、と言った感じですね。

最後に、別途配布している【ギターと音楽の教科書】vol.07.5に「2つの3rdの位置を把握するためのトレーニング」と言うものがありますので、そちらもやっておくと、この講座を通して、学習全体の理解が深まるかと思えます。

それでは、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼